



井田 安雄

むかし、むかしあったげな。
じじいとばばあがあったげな。
おじいさんが百姓して、アワ蒔きに行くつうんだって。
そうするとおじいさん、年を取ったもんだから、アワ蒔き行くんだけど、うちを出るときむすび（おにぎり）を持ったら、はあ、アワ種忘れて行っちゃったんだって。

そしたら木の上で鳥が、
「おじい、おじい、アワは。おじい、おじい、アワは」
って鳴くんだって。

それでおじいは、おかしいなあと思って、考えてみたら、アワ種持って来ねえ。それで、
「ばあさんアワ種忘れたよう」
って、家に帰って来たって。

そして、こんだ、ひよこひよこ家から出て行ったら、鳥がまた、
「おじい、おじい、クワは。おじい、おじいクワは」
っていうんだって。

そしたらおじいは、
「はあ、また鍬忘れた」

こんだ、鍬かついで畑へ行ったら、
家と畑の間を、行ったり来たりしているうちにお昼になっちゃったんだって。
それでもって、おじいは腹が減ったから、むすびでも食ってからアワ蒔きしようと思って、石の上に腰かけて、むすび出して食おうと思ったんだって。そしたらそこへ小鳥が来て、むすびの上にひよこっと止まったんだって。おじいパツクリ、むすびと一緒に小鳥を食っちゃったって。それでおじいは、アワ種教えたり、鍬教えたりしてくれた鳥呑んじやって、かわいそうなことした、って、それを心配していたんだって。

そうしたら、そのうちに、脇の下あたりがかゆくなったので、脇かいたんだって。するとなんか、もやもやするもんがあるから、それをひっぱったんだって。そうしたら、
アラチュウチュウ、コラチュウチュウ、コンガネサラサラ、チリンパラリン
って鳴いたんだって。

おじいさんは、明日、お殿様がお通りになるから木の上に登って一もうけしましょって、あした、木の上に登って、お殿様のお通りを待っていたんだって。そしたらお殿様の行列が、「下に、下に」とやって来たんだって。

そしたら、おじいがちっとも木から下がらねえから、家来の者が、
「そこにいるのは何じじいじゃ」
「日本一のへっぴりじじい」
「尻をひらばひってみよ」

おじいがちょっと脇腹をひっぱったら、
アラチュウチュウ、コラチュウチュウ、コンガネ
サラサラ、チリンパラリン
って鳴いたって。

お殿様はおじいの歌がおもしろいので、
「こりゃいい歌だ。いまひとつ歌ってみろ」
って。そしたらまた、

アラチュウチュウ、コラチュウチュウ、コンガネ
サラサラ、チリンパラリン



っていうんだって。

「こりゃおもしろい。下へおりろ。ほうびをくれる」

つうで、それでおじいは木から下りてきた。そしたら、いっぱいほうびもらってきたんだって。

おじいは、家へ来て、仏様の前におかねをじゃらじゃらとあけて、仏様おがんだって。

そしたら隣の欲深じいさん、

「この家じゃ、こがねの音がしたが、どうして金もうけしたや」

って行って来たんだって。

そしたらおじいは、

「こういうわけだ」

といった。隣の欲深じいさんは、屁をひれば金もうけが出来ると思って、ばあさんに、

「芋煮ろ」

つうで、ばあさまが芋煮て、じいさまは芋いっぺえ食って出掛けて行ったんだって。

欲深じいさまは、腹がしくしく痛いのがまんして、木の上に登って殿様のお通りを待っていたんだって。

殿様がやって来て、

「また昨日のじいさまがいるから、またいい声を聞かせてもらおうべえ」

つうでまた、「下に、下に」とやって来たんだって。家来の者が、

「そこにいるのは何じじいだ」

「日本一のへっぴりじじい」

「屁をひらばひってみろ」

つうで、みんな木のそばへ寄って、天上見ていたんだって。

そしたら、芋食って、腹しくしく痛えし、ちょうどいいところだから、

じいさまは、

「びち、びち」

ってまるで雨の如くやっちゃった。そしたら

「無礼者」

つうで、木の上からずりおろされて、きずだらけになって家へ帰って来たんだって。

おばあは、おじいがこがねをいっぺえもらい、錦ももらって来るつうで、着物をみんな便所の中へぶちやったんだって。

そして便所の屋根のぼって、

「おらがじいさんなんかは、絹けんぶで、べべびしゃびしゃ」

って尻まくって尻はたいていたって。

ところがじいさんはきずだらけ。

着物もなし。それで隣のいいおじいのところへ行って、着物もらって来たって。

それっきり、いちがさけ申した。



あとがき

この話の語り手は、利根郡みなかみ町藤原の浜名マサさん（明治40年生まれ）。マサさんは、語り手の多かった藤原でも有名な語り手であった。藤原にお生まれになり、藤原にずっとお住まいであったマサさんは、上手な先輩語り手の方からたくさんの昔話をうけ継いで、ムラの人にも外来者にも、いろいろの昔話を語ってくださった。マサさんの語りは、ここに書き記したように、本格的な昔語りで、しかもそれを上手に語っておられた。

今ではこの語りもお聞きすることは出来ない。誠に残念なことである。文字からマサさんの語りを偲んでいただきたい。

「鳥呑爺」の昔語りは、中世の『お伽草子』の「福富長者物語」の系統をひく昔話であるという。また、鳥の力によって富を得る話でもあり、隣同士のいいじいさん、悪いじいさんの登場する「隣の爺型」の昔話の一つでもある。

本県でも、各地で聞くことの出来る昔話であり、「へっぴり爺さん」の話として広く知られている。

その中でも、マサさんの「鳥呑爺」は独特の語りである。